

令和7年度 阪南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞

全国平均正答率より4.7pt(R6年度は4.9pt。以下同じ)上回った。また、領域別では「話すこと・聞くこと」領域では1.4pt(2.8pt)、「書くこと」領域では4.5pt(9.5pt)、「読むこと」領域では4.9pt(6.8pt)、「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域では11.8pt(4.9pt)上回った。以上の点から、「思考・判断・表現」においては平均以上の学力がついていると考えられる。

＜数学＞

全国平均より10.7pt(7.5pt)上回った。また、領域別においても4つの全分野において全国平均正答率を上回った。特に「数と式」領域では14pt(9.1pt)、「図形」領域では10.0pt(10.0pt)と大きく平均を上回り、基礎学力の定着に一定の効果が見られる。また、全問題において無回答率が全国平均より4.6pt低く、意欲をもって取り組む姿勢がみられる。また正答問題数が全国平均と比べて非常に高く、全体的な数学への理解の習熟が進んでいる。しかしながら一定数正答数が低い生徒がいるので、引き続き基礎の習熟にも注力したい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞

大阪府平均と比較して、8.2pt(4.8pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回る結果となった。一方、「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は0.8pt(2.6pt)しか上回っておらず、今後の知識技能の基礎学力の定着に注力したい。

＜社会＞

大阪府平均と比較し、8.7pt(4.4pt)高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回っている。しかし、問題形式の記述は、他の領域と比較して0.5pt(0.4pt)しか上回っていないので、今後の課題とする。

＜数学＞

大阪府平均に比べ、9.5pt(8.2pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回り、基礎学力の定着ができているといえる。しかしながら標準偏差が高く、ばらつきのある結果となったので、まだまだ基礎学力が身につけていない生徒がいるため、引き続き指導を続けたい。

＜理科B＞

大阪府平均と比較して、9.8pt(6.9pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回った。しかし、「エネルギー」の領域の得点率は44.8pt(43.4pt)であり、大阪府と比較すると、平均点が4.3pt(6.9pt)のみ上回っているため、他の領域と比較して今後の「エネルギー」の領域に対して注力したい。

＜英語＞

大阪府の平均と比較して14.7pt(8.9pt)非常に高い結果であった。全領域においても大阪府平均を上回ることができた。無解答率も4.3pt(2.8pt)下回っており、高得点の割合の高さと低得点の割合の低さとも良い結果につながっている。引き続き指導の継続を図り、さらに学習を進めたい。